

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(声優養成科 (昼間部) 2年制)

科目 区分	分類	授 業 科 目	授業 時間数	うち 実務教員に よる授業	授業 時間数	うち シラバス 添付	授業 時間数	備考
講義	必修	表現	80					
実習	必修		160					
講義	必修	演技力	120					
実習	必修		240					
講義	必修	ボーカル実習	80					
実習	必修		160					
講義	必修	セリフ基礎	40					
実習	必修		80					
講義	必修	演劇概論	120	○	120	☆	120	
実習	必修	ナレーション	280					
講義	必修	朗読劇	40					
実習	必修		40					
実習	必修	ムーブメント	40					
実習	必修	ダンス	120					
講義	必修	ファッションセンス	80					
講義	必修	声優演技	40					
実習	必修		80					
実習	必修	アフレコ実習	120	○	120	☆	120	
実習	必修	吹き替え実習	120					
講義	必修	オーディション実習	40					
実習	必修		80					
講義	選択	舞台演技	40					
実習	選択		200					
講義	選択	アフレコ・吹替	40					
実習	選択		200					
講義	選択	ナレーター	40					
実習	選択		200					
講義	選択	ボーカル	40					
実習	選択		200					
講義	選択	声優ビジネス	40					
実習	選択		200					
総授業時数			2,400		240		240	
卒業に必要な授業時数（学則）			2,400					

※ 2年次においては、舞台演技、アフレコ・吹替、ナレーター、ボーカル、声優ビジネスのどれかを選択し、履修するものとする。

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	表現（1年次）	田村 連・村國 守平	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
声優としての基本の知識を学び、表現者としての自分を知り、深め、プロとして（声優）表現の現場に立てる個性的な声優になることを目標とする。			
【講義概要】			
基本は講義を中心に、声優としての表現は「しゃべること」「動くこと」「感じること」が一体になっている事を学び、喋る技術を中心に知識を深める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	発表・滑舌など声優として必要な技術を学ぶ ①		
2	発表・滑舌など声優として必要な技術を学ぶ ②		
3	発表・滑舌など声優として必要な技術を学ぶ ③		
4	“おしゃべり”ではなく他人に伝える“しゃべり”を学ぶ ①		
5	“おしゃべり”ではなく他人に伝える“しゃべり”を学ぶ ②		
6	“おしゃべり”ではなく他人に伝える“しゃべり”を学ぶ ③		
7	言葉を感じる、伝える事に慣れていく ①		
8	言葉を感じる、伝える事に慣れていく ②		
9	言葉を感じる、伝える事に慣れていく ③		
10	2人での会話文を使い、他者と自分の“ちがい”を知る ①		
11	2人での会話文を使い、他者と自分の“ちがい”を知る ②		
12	2人での会話文を使い、他者と自分の“ちがい”を知る ③		
13	ナレーション、アニメーション、芝居それぞれの表現など媒体による表現の違いを学ぶ ①		
14	ナレーション、アニメーション、芝居それぞれの表現など媒体による表現の違いを学ぶ ②		
15	発表（定期試験）		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。定期試験・講義毎の理解度で70点、授業への参加・意欲を30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式にはなるが個性を大切にしたいのであくまでも1対1を想定した授業が中心になる。担当教員は声優や俳優、演出家として活躍している。現役ならではの実際の現場を踏まえた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	表現（1年次）	田村 連・村國 守平	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
声優としての基本技術を学び、表現者としての自分を知り、深め、プロとして（声優）表現の現場に立てる個性的な声優になることを目標とする。			
【講義概要】			
あくまで実践形式の講義を中心に、声優としての表現は「しゃべること」「動くこと」「感じること」が一体になっている事を学ぶ。「他とはちがう自分」としての表現を習得できるように講義を展開する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	短文をテキストに使い、基本を押さえて表現する ①		
2	短文をテキストに使い、基本を押さえて表現する ②		
3	短文をテキストに使い、基本を押さえて表現する ③		
4	会話を含めた長文を使い表現する ①		
5	会話を含めた長文を使い表現する ②		
6	言葉と動きの（気持ちの働き）の関係をj知るため、会話劇を立体的に仕上げる ①		
7	言葉と動きの（気持ちの働き）の関係をj知るため、会話劇を立体的に仕上げる ②		
8	言葉と動きの（気持ちの働き）の関係をj知るため、会話劇を立体的に仕上げる ③		
9	会話劇を立体的に仕上げ、それを言葉のみの表現に戻ってみる ①		
10	会話劇を立体的に仕上げ、それを言葉のみの表現に戻ってみる ②		
11	会話劇を立体的に仕上げ、それを言葉のみの表現に戻ってみる ③		
12	キャラクター、シチュエーションなどをj変え、より個性的、自分らしい表現に挑戦 ①		
13	キャラクター、シチュエーションなどをj変え、より個性的、自分らしい表現に挑戦 ②		
14	キャラクター、シチュエーションなどをj変え、より個性的、自分らしい表現に挑戦 ③		
15	発表（定期試験）		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。定期試験・実習の成果で70点、授業への参加・意欲を30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習形式で1対1を想定した授業が中心になる。担当教員は声優や俳優、演出家として活躍している。現役ならではの実際の現場を踏まえた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	表現（2年次）	村國 守平・田村 連	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年生で学んだ表現を基礎とし、声優として、プロの役者として通用するような表現の知識を身に付けることを目標とする。			
【講義概要】			
台本を分解し解釈の方法を学び、読解力をつける。様々な文章を用い登場人物の感情の変化、会話の表現を考察していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	1年次に学んだ基本技術の確認と反復（発声・滑舌）①		
2	1年次に学んだ基本技術の確認と反復（発声・滑舌）②		
3	1年次に学んだ基本技術の確認と反復（発声・滑舌）③		
4	自分の表現したい文章を各自選び考察 ①		
5	自分の表現したい文章を各自選び考察 ②		
6	自分の表現したい文章を各自選び考察 ③		
7	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）①		
8	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）②		
9	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）③		
10	短文を使った考察（やれる事とやりたい事の違い）④		
11	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）①		
12	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）②		
13	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）③		
14	会話の文章を使った考察（他者を知る、自分を知る）④		
15	定期試験		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。定期試験・講義毎の理解度で70点、授業への参加・意欲を30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を中心に芝居作りの根底を理解させる。それぞれの人間の心情をより汲み取れる姿勢を養う。 担当教員は声優や俳優、演出家として活動しているため、実務経験に基づいて声優の育成に向けた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	表現（2年次）	村國 守平・田村 連	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
1年生で学んだ表現を基礎とし、声優として、プロの役者として通用するような表現の技術を身に付けることを目標とする。			
【講義概要】			
台本を分解し解釈の方法を学び、実践する表現方法を学ぶ。1つの台本を深く読み解き登場人物の感情の変化、会話の描写を細かく表現していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ①		
2	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ②		
3	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ③		
4	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ④		
5	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ⑤		
6	長め芝居を立体として成り立たせる。台詞の交流、肉体の表現を学ぶ ⑥		
7	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）①		
8	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）②		
9	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）③		
10	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）④		
11	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑤		
12	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑥		
13	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑦		
14	卒業公演の稽古（一つの芝居を通じ、一般の方に今までの成果を発表）⑧		
15	発表		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。発表の成果で70点、授業への参加・意欲を30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を中心に演技の性根を理解させる。1つの舞台を作ることにより、役の心情の変化を理解し、演じ分けられる技術を身につける。担当教員は声優や俳優、演出家として活動しているため、実務経験に基づいて声優の育成に向けた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	演技力（1年次）	梯 篤司	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
演技というものの本質と人間の感情への理解を深め、芝居を構築する為の土台を形成することを目標とする。			
【講義概要】			
芝居を形づくる上で最も重要な「言葉と感情の関係性」を学ぶ。また、その理解と演技能力を高めるために台詞を分解しながら検討していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自己紹介を通じ、コミュニケーションを図るとともに各々の声質、性格等の確認。		
2	演技の根本と台詞への理解を深める ①		
3	演技の根本と台詞への理解を深める ②		
4	演技の根本と台詞への理解を深める ③		
5	自ら選んできた台詞を検討 ①		
6	自ら選んできた台詞を検討 ②		
7	他者から与えられたセリフを検討 ①		
8	他者から与えられたセリフを検討 ②		
9	会話形式のセリフを検討 ①		
10	会話形式のセリフを検討 ②		
11	会話形式のセリフを検討 ③		
12	会話形式のセリフを検討 ④		
13	発表に向けて台詞を選定する ①		
14	発表に向けて台詞を選定する ②		
15	発表を終えての考察		
【成績評価方法】			
講義全体を100点として採点する。授業への取り組み40点、講義全体への理解度60点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当教員は声優事務所に所属する声優であり、プロとしての活動や経験に基づいて声優・俳優の育成に向けた授業を行う。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	演技力（1年次）	梯 篤司	4単位／160時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
演技というものの本質と人間の感情への理解を深め、芝居を構築する為の演技の基礎を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
芝居を形づくる上で最も重要な「言葉と感情の関係性」を学ぶ。また、実践を通してその理解と演技能力を高める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	喜怒哀楽の再体験を試み、感情を表に出す事を実践する ①		
2	喜怒哀楽の再体験を試み、感情を表に出す事を実践する ②		
3	自ラセリフを選び演じる ①		
4	自ラセリフを選び演じる ②		
5	他者から与えられたセリフを演じる ①		
6	他者から与えられたセリフを演じる ②		
7	会話① 2人での会話台詞。聞くという事、相手に話すという事を意識させる		
8	会話② 2人での会話台詞。聞くという事、相手に話すという事を意識させる		
9	会話③ 2人での会話台詞。聞くという事、相手に話すという事を意識させる		
10	会話④ 感情の起伏が大きくより複雑なものの会話		
11	モノログ① 内向きの感情と台詞		
12	モノログ② 内向きの感情と台詞		
13	発表に向けて自ら選んだ台詞を練習。演出を受ける事を体験		
14	発表に向けて自ら選んだ台詞を練習。演出を受ける事を体験		
15	発表 観客に見せるという事の体験		
【成績評価方法】			
講義全体を100点として採点する。授業への取り組み40点、発表の成果60点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当教員は声優事務所に所属する声優であり、プロとしての活動や経験に基づいて声優・俳優の育成に向けた授業を行う。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	演技力（2年次）	小川 一樹	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
俳優の仕事は人間の生きざまを細かく分析してその人柄を表現すること。自分以外の配役の人生を的確に演じるため、作品の読み解き方を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
1年間かけてクラスで1本のミュージカル作品を創りながら、自らを鍛え、観る人に感動を与えられるような表現者を目指して学びます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自己紹介・オリエンテーション、俳優の仕事とは何か		
2	台本の読み合わせ ① 作品の分析の仕方		
3	台本の読み合わせ ② 作品を読み解く		
4	台本の読み合わせ ③ 登場人物の分析		
5	台本の読み合わせ ④ 登場人物の心情を読み解く		
6	台本の読み合わせ ⑤ 登場人物の言葉で作品が伝えたいこと		
7	セリフの考察 ①		
8	セリフの考察 ②		
9	セリフの考察 ③		
10	セリフの考察 ④		
11	登場人物としての表現方法を学ぶ ①		
12	登場人物としての表現方法を学ぶ ②		
13	登場人物の人生を追体験することで表現を深める ①		
14	登場人物の人生を追体験することで表現を深める ②		
15	台本・作品・登場人物の分析をもとに、作品を理解する		
【成績評価方法】			
講義全体を100点として採点する。授業への取り組み40点、講義全体への理解度60点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
1年間かけて1本のミュージカル作品を使用し、作品への理解を深めていく。講義が中心の授業となるが、適宜実習も交えながら授業を進める。担当教員は舞台俳優、声優として活動しており、経験を基に声優の育成に向けた授業を展開していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	演技力（2年次）	小川 一樹	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
登場人物の探求がテーマ。俳優の仕事は人間の生きざまを細かく分析してその人柄を表現すること。 限りなく人間探求を続け、登場人物に命を与え舞台上で生き様を表現する事を到達目標とする。			
【講義概要】			
1本のミュージカル作品を創り、最後に発表と収録を行う。自らを鍛え、観る人に感動を与えられるような演技の出来る表現者を目指して学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	登場人物の紹介と配役の決定		
2	作品の中での登場人物として表現 ①		
3	作品の中での登場人物として表現 ②		
4	芝居相手との会話を通しての表現 ①		
5	芝居相手との会話を通しての表現 ②		
6	登場人物の心情を深く理解し表現する ①		
7	登場人物の心情を深く理解し表現する ②		
8	登場人物の心情を深く理解し表現する ③		
9	本番に向けて通し稽古 ①		
10	本番に向けて通し稽古 ②		
11	本番に向けて通し稽古 ③		
12	本番に向けて通し稽古 ④		
13	本番に向けて通し稽古 ⑤		
14	本番と収録		
15	収録した作品を見て、フィードバック		
【成績評価方法】			
講義全体を100点として採点する。授業への取り組み40点、本番の成果60点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
ミュージカル作品を題材とし、歌や踊りも交えて表現する力を養う。実習が中心の授業となるが、台本の理解を深めるために適宜講義も交えて行う。担当教員は舞台俳優、声優として活動しており、経験を基に声優の育成に向けた授業を展開していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ボーカル実習（1年次）	高野 大樹	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
ボーカリストとして必要な身体作り、発声、呼吸法、楽曲分析、歌唱についての講義を行い、エンターテインメントの世界でボーカリストのプロとしても活動していける知識を学ぶことを目標とする。			
【講義概要】			
現在のエンターテインメント業界において求められるボーカリストはどのようなものか、業界の流れを知り、求められるパフォーマンスについての様々なボーカルスタイルを学習していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ボーカリストの仕事、身に付けるべき技術、心構え		
2	呼吸法の習得 ①		
3	呼吸法の習得 ②		
4	曲の構成について講義、楽曲の分析 ①		
5	曲の構成について講義、楽曲の分析 ②		
6	歌詞について、言葉の意味、背景、イメージ作りについて ①		
7	歌詞について、言葉の意味、背景、イメージ作りについて ②		
8	母音唱法について		
9	子音の使い方について		
10	子音の使い方について		
11	リズム感の育成 ①		
12	リズム感の育成 ②		
13	マイク知識、マイクパフォーマンスについて学習 ①		
14	マイク知識、マイクパフォーマンスについて学習 ②		
15	定期試験		
【成績評価方法】			
定期試験を60点、授業への参加・意欲40点、計100点満点として評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
楽典に関わる事、呼吸法、発声法に関わる事についての講義を基本とするが、適宜実習も取り入れながら理解を深める。担当教員はオペラ歌手を演奏活動の始めとし、様々なイベントに数多く出演。その経験に基づいた、今求められるボーカリスト育成を目的とした授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ボーカル実習（1年次）	高野 大樹	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
ボーカリストとして必要な身体作り、発声、呼吸法、楽曲分析、歌唱についての実技を行い、エンターテインメントの世界でボーカリストのプロとして活動していける技術を学ぶことを目標とする。			
【講義概要】			
現在のエンターテインメント業界において求められるボーカリストはどのようなものか、業界の流れを知り、求められるパフォーマンスを実践的に学びます。ソロパフォーマンスやコーラスパフォーマンスに取り組み、様々なボーカルスタイルを習得します。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ボーカリストとしての身体作り、筋力トレーニング		
2	発声トレーニング		
3	アニメ作品の主題歌について学習 ①		
4	アニメ作品の主題歌について学習 ②		
5	J-POPの歌唱について学習 ①		
6	J-POPの歌唱について学習 ②		
7	ミュージカル作品について学習 ①		
8	ミュージカル作品について学習 ②		
9	ソロパフォーマンス ①		
10	ソロパフォーマンス ②		
11	デュエットパフォーマンス ①		
12	デュエットパフォーマンス ②		
13	コーラスパフォーマンス ①		
14	コーラスパフォーマンス ②		
15	定期試験（ソロパフォーマンスを行い学習成果を判断する）		
【成績評価方法】			
実技での定期試験を60点、授業への参加・意欲40点、計100点満点として評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技を伴っての授業を基本とするが、適宜講義も取り入れながら授業を進める。担当教員はオペラ歌手を演奏活動の始めとし、様々なイベントに数多く出演。その経験に基づいた、今求められるボーカリスト育成を目的とした授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ボーカル実習（2年次）	宮原 健一郎	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
特に歌唱スキルと演技力（表現力）を結び付けることを大きなテーマとし、その両方を結びつけるための基礎知識を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
音楽的基礎（音程・リズム・ハーモニー）と発声の基礎を中心に学び、ボーカリストとしてのスキルを更に向上させていく。ミュージカルナンバーの研究を通して、「歌詞を台詞として伝える」ということを中心に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、音域、音質チェック		
2	〔ボーカル基礎の確認①〕ストレッチ、プレストレーニング、発声、楽典		
3	〔ボーカル基礎の確認②〕ストレッチ、プレストレーニング、発声、楽典		
4	〔ボーカル基礎の確認③〕ストレッチ、プレストレーニング、発声、楽典		
5	〔ボーカル基礎の確認④〕ストレッチ、プレストレーニング、発声、楽典		
6	〔ボーカル基礎の確認⑤〕ストレッチ、プレストレーニング、発声、楽典		
7	〔リズム感①〕様々なリズムについて学ぶ		
8	〔リズム感②〕様々なビートについて学ぶ		
9	〔リズム感③〕リズムを的確に捉えた、グルーブ感のある歌唱を目指す		
10	〔芝居としての歌①〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを学ぶ		
11	〔芝居としての歌②〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを学ぶ		
12	〔英語での歌唱①〕英語歌詞のディクッション		
13	〔英語での歌唱②〕英語歌詞のディクッション		
14	〔コーラスとソロ①〕コーラスとソロそれぞれの役割		
15	〔コーラスとソロ②〕コーラスとソロそれぞれの役割		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を基本とするが、習熟度を深めるために実習も適宜取り入れる。担当教員は劇団にてミュージカルの基礎を学び、様々な舞台に出演した経験があり、その経験に基づいて表現の現場ですぐに活かせる技術を伝えていく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ボーカル実習（2年次）	宮原 健一郎	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
特に歌唱スキルと演技力（表現力）を結び付けることを大きなテーマとし、俳優として説得力ある歌唱表現ができるようになることを目標とする。			
【講義概要】			
音楽的基礎（音程・リズム・ハーモニー）と発声の基礎を実践しながら学び、ボーカリストとしてのスキルを更に向上させていく。ミュージカルナンバーの歌唱を通して、「歌詞を台詞として伝える」ということを中心に学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	〔コーラスワーク①〕コーラスワークに取り組むことで、正しい音程感、和声感を身に付ける		
2	〔コーラスワーク②〕コーラスワークに取り組むことで、正しい音程感、和声感を身に付ける		
3	〔コーラスワーク③〕コーラスワークに取り組むことで、正しい音程感、和声感を身に付ける		
4	〔コーラスワーク④〕コーラスワークに取り組むことで、正しい音程感、和声感を身に付ける		
5	〔芝居としての歌①〕キャラクターの個性、心情を歌声で表現する		
6	〔芝居としての歌②〕キャラクターの個性、心情を歌声で表現する		
7	〔芝居としての歌③〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを表現する		
8	〔芝居としての歌④〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを表現する		
9	〔芝居としての歌⑤〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを表現する		
10	〔芝居としての歌⑥〕“歌詞を台本として伝える”ということを目指し、ミュージカルナンバーを表現する		
11	〔英語での歌唱①〕発音とリズムの双方が洗練された歌唱を目指す		
12	〔英語での歌唱②〕発音とリズムの双方が洗練された歌唱を目指す		
13	〔英語での歌唱③〕発音とリズムの双方が洗練された歌唱を目指す		
14	〔コーラスとソロ①〕定期試験を兼ねた発表		
15	〔コーラスとソロ②〕定期試験を兼ねた発表		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として採点する。定期試験40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を基本とするが、適宜講義も交えながら進めていく。担当教員は劇団にてミュージカルの基礎を学び、様々な舞台に出演した経験があり、その経験に基づいて表現の現場ですぐに活かせる技術、心構えを伝えていく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	セリフ基礎	伊藤 和子	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
声優として仕事をする上で必要不可欠な美しい標準語を話すための基礎知識を身に付けることを目標としている。			
【講義概要】			
日本語の仕組みを学び、日本語の発音を調べ、また、標準語を話す上での注意点や正しい日本語のアクセントを習得していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本語考査としてのスピーチ		
2	ストレッチ、呼吸、発声練習の方法と注意点		
3	発声のしくみと発音練習 母音		
4	発声のしくみと発音練習 子音（カ、ガ、サ、ザ行）		
5	発声のしくみと発音練習 子音（タ、ダ、ナ行）		
6	発声のしくみと発音練習 子音（ハ、バ、パ、マ行）		
7	発声のしくみと発音練習 子音（ヤ、ラ、ワ行）		
8	標準語の約束事 無声音	「泣いた赤おに」朗読	
9	標準語の約束事 鼻濁音	「泣いた赤おに」朗読	
10	標準語の約束事 その他の発音	「泣いた赤おに」朗読	
11	標準語のアクセント 名詞	型の種類と言葉深し（1～2音節）	
12	標準語のアクセント 名詞	型の種類と言葉深し（3～4音節以上）	
13	標準語のアクセント 動詞	活用による変化	
14	標準語のアクセント 形容詞	「泣いた赤おに」朗読	
15	定期試験		
【成績評価方法】			
全体を100点満点とし、定期試験70点、授業への参加意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義を中心に展開していく。各学生の出身地や個人的な癖による発音のズレは様々であるので、それぞれに応じた適切な指摘により、正しく美しい標準語に導いていく。担当教員は、様々な朗読活動経験を基に実践的な授業を行う。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	セリフ基礎	伊藤 和子	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
声優として仕事をする上で必要不可欠な美しい標準語を話すための技術を身に付けることを目標としている。			
【講義概要】			
毎回、声を出せる体を作るためのストレッチ、呼吸、発声練習を繰り返しながら、日本語の発音を調えつつ、文章の読解力を深め、標準語の約束事やアクセントを徹底的に身につける。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	標準語のアクセント 副詞、接続詞等 「泣いた赤おに」朗読		
2	標準語のアクセント 総合練習 「泣いた赤おに」朗読		
3	表現技術 プロミネンス、イントネーション等		
4	「外郎売の科白」 縁起		
5	「外郎売の科白」 1ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
6	「外郎売の科白」 2ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
7	「外郎売の科白」 3ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
8	「外郎売の科白」 4ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
9	「外郎売の科白」 5ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
10	「外郎売の科白」 6ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
11	「外郎売の科白」 7ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
12	「外郎売の科白」 8ブロック 口立てと解釈 暗記テスト		
13	「外郎売の科白」 全文暗記 口立てと解釈 暗記テスト		
14	「泣いた赤おに」朗読発表		
15	定期試験		
【成績評価方法】			
全体を100点満点とし、定期試験70点、授業への参加意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を中心に授業を組み立てるが、各学生の出身地や個人的な癖による発音のズレは様々であるので、それぞれに応じた適切な指摘により、正しく美しい標準語に導いていく。担当教員は、様々な朗読活動経験を基に実践的な授業を行う。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	演劇概論	山口 研志	6単位／120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
役者として必要不可欠な演劇の世界の知識を学ぶ。また、世界に演劇が存在する意義を学び、芸術家として誇りを持って演劇に取り組む姿勢を身につけることを目標とする。			
【講義概要】			
舞台演劇、映像演劇、声優演劇の三本柱を軸に、実際の現場で要求される演技力と知識を細かく講義する。また、実際の役造りをテーマに自分の課題点も探っていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	演劇とは(種類、目的、イメージ、要素、伝達方法等)		
2	演劇の本質を考える		
3	新劇の歴史 文芸協会→自由劇場→築地小劇場→新劇		
4	映画の歴史 日本とアメリカでの舞台俳優と映画の歴史		
5	小劇場、アンガラ／劇団という組織／舞台スタッフの職種と内容		
6	舞台公演の行程		
7	スタニスラフスキーと現代のN Yの演技論		
8	ギリシア・ローマ演劇／役者の身体概論 1		
9	役者の身体概論 2		
10	中世演劇		
11	ルネサンス演劇 1（イタリア）／ルネサンス演劇 2(フランス・イギリス)		
12	近代演劇(イプセン、ショー、ストリンドベリ、チェーホフ)		
13	現代演劇(アメリカ演劇／アンガラ・不条理演劇)		
14	日本の伝統芸能		
15	映像演劇の種類と専門用語解説／近年の邦画について		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。課題レポート50点、授業への参加・意欲50点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を基本とするが、役者に必要な身体感覚を学ぶために数回にわたり身体を使った実習を行う。担当教員は文化庁新進芸術家海外留学生としてニューヨーク・ブロードウェイに演劇留学をした経験を活かし、世界を視野に入れた演劇を多角的に講義する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ナレーション（1年次）	弘中 くみ子	4単位／160時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
ナレーション・語りは「音読」ではなく、誰かに何かを伝えるのだという意識を明確に持つ。文章が求められているものを読み解く力を培い、言い方、やり方ではなく、心の動きに裏付けされたストレートな表現を目指す。			
【講義概要】			
短い詩や文章を教材にまずは声を前に出して表現することを学ぶ。「ナレーション」という固定観念に捕われることなく、ニュース、番宣、ドキュメンタリー、CM，バラエティー等の様々な文章に触れることにより、各自の照れやタブーを克服して思い切った表現が出来るよう模索していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ウォーミングアップとしての最低限の滑舌練習。詩の群読		
2	読み手の距離やシチュエーションを変えることで表現がどのように変化するか考察		
3	短編の詩を語り手、登場人物に分けて語る		
4	詩の持つ世界を読み解く。空間、景色、絵を描く。登場人物のイメージをはっきりさせる		
5	マイクを使って小作品を語る。マイクを通した自分の声をちゃんと聴いて知る		
6	DVD映像を見ながら語る		
7	映像を想像して語る。アバンタイトル		
8	語りと登場人物を分けて収録		
9	様々なスタイルのナレーションを知る。①ニュース原稿		
10	様々なスタイルのナレーションを知る。②ドキュメンタリー		
11	様々なスタイルのナレーションを知る。③番宣		
12	様々なスタイルのナレーションを知る。④バラエティー		
13	様々なスタイルのナレーションを知る。⑤CM		
14	作品分析を丁寧に。登場人物の役づくりを深く模索する		
15	定期試験 録音、視聴		
【成績評価方法】			
全体を100点満点中、定期試験70点、授業態度30点で評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的に実践形式で行う。担当教員は声優事務所に所属し、外画吹替やドキュメンタリーや報道関係のナレーションのレギュラーを持ち、現場のスタッフに鍛えられた経験を活かして授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ナレーション（2年次）	布施川 一寛	3単位／120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
声優におけるナレーションの立ち位置を学び、コミュニケーションを通してことばの伝達を考える。 また、発声の基礎や滑舌、アクセントなどの基礎技術を習得・復習することで基礎力の底上げを目指し、様々な読み方を身に着けることを目標とする。			
【講義概要】			
自分の言葉を適切に使うことが出来るようにする一方で、それが他人にどう感じられるかを考える。またそこで生まれた感覚を応用し、原稿課題を通して読むことと伝えることが同じであるということを理解させる。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	他人を伝える他己紹介		
2	基礎訓練課題 ①		
3	基礎訓練課題 ②		
4	伝達とコミュニケーション① 好きなものを伝えるトーク		
5	伝達とコミュニケーション② 受け取り手の感覚を確認する		
6	コミュニケーションとナレーション ①		
7	コミュニケーションとナレーション ②		
8	原稿の内容理解をより深く ①		
9	原稿の内容理解をより深く ②		
10	ナレーション実践① 読む＝喋る		
11	ナレーション実践② イメージを変えることを学ぶ		
12	ナレーション実践③ 様々な喋り方を考える		
13	ナレーション実践④ 提示と対応		
14	ナレーション実践⑤ 表現する力と自分の個性		
15	実技試験		
【成績評価方法】			
全体を100点満点中、実技30点、授業態度20点、授業課題30点、出席率での総合評価20点で評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習を中心に進めながら、適宜クラス全体で意見を出し合いながら授業を進める。セオリーを身に着けることと同時に、イレギュラーなものの可能性を排除しない視野の広さを大切に取り組む。担当教員は声優プロダクションの所属として多数のナレーションに携わる経験を基に授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	朗読劇	山口 美良 他	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
身体を用いた演技だけでなく、表情を言葉のみで伝えるための知識や技術を学び、役者として成長することを目標とする。			
【講義概要】			
台詞と語りの演じ分けが出来るように、感情のコントロールの仕方を学んでいく。身体を動かさなくてもより深い感情表現が出来るようにはどうすべきか考察する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	発声、発音など基礎力の向上 ①		
2	発声、発音など基礎力の向上 ②		
3	台本の読み込み方と読解力の育成 ①		
4	台本の読み込み方と読解力の育成 ②		
5	台本の読み込み方と読解力の育成 ③		
6	読み合わせ、声だけの演技に必要なこと ①		
7	読み合わせ、声だけの演技に必要なこと ②		
8	読み合わせ、声だけの演技に必要なこと ③		
9	パートごとのより深い表現を求める ①		
10	パートごとのより深い表現を求める ②		
11	登場人物の心情を理解する ①		
12	登場人物の心情を理解する ②		
13	登場人物の心情を理解する ③		
14	作品全体を理解する ①		
15	作品全体を理解する ②		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として採点する。講義の理解度70点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的に講義を中心に進めていくが、適宜実習も取り入れる。担当講師は数多くの舞台を経験した役者、声優、演出家などで構成され、各々の実技習得体験に基づき、授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	朗読劇	山口 美良 他	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
身体を用いた演技だけでなく、表情を言葉のみで伝えるための知識や技術を学び、役者として成長することを目標とする。			
【講義概要】			
台詞と語りの演じ分けが出来るように、感情のコントロールを経験しながら学んでいく。言葉での感情表現を深めるために繰り返し稽古をしていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	キャスティングのため、パート分けして表現 ①		
2	キャスティングのため、パート分けして表現 ②		
3	キャスティング、テキストレージしながら稽古 ①		
4	キャスティング、テキストレージしながら稽古 ②		
5	キャスティング、テキストレージしながら稽古 ③		
6	パートごとの稽古・より深い表現を求める ①		
7	パートごとの稽古・より深い表現を求める ②		
8	パートごとの稽古・より深い表現を求める ③		
9	パートごとの稽古・より深い表現を求める ④		
10	通し稽古 ①		
11	通し稽古 ②		
12	通し稽古 ③		
13	通し稽古 ④		
14	通し稽古 ⑤		
15	本番		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として採点する。本番での成果70点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的に実習を中心に進めていく。担当講師は数多くの舞台を経験した役者、声優、演出家などで構成され、各々の実技習得体験に基づき、授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ムーブメント	田村 連	1単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
己の体の構造を知り、その可動域を広げることで、身体的な表現の幅を広げることを目標としている。			
【講義概要】			
体の構造を知り、表現するうえで体の内面がどのように動くのかを学んでいく。演技を声だけでなく体を使って表現する技術を習得する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	各自の体を知り、表現できる体を会得できるよう訓練 ①		
2	各自の体を知り、表現できる体を会得できるよう訓練 ②		
3	空間を掴む、感情を掴む、動きを掴む ①		
4	空間を掴む、感情を掴む、動きを掴む ②		
5	ムーブメントを演劇的に捉える ①		
6	ムーブメントを演劇的に捉える ②		
7	ムーブメントをダンス的に捉える ①		
8	ムーブメントをダンス的に捉える ②		
9	リズムレッスン ①		
10	リズムレッスン ②		
11	ムーブメントをボーカルの的に捉える ①		
12	ムーブメントをボーカルの的に捉える ②		
13	各自表現方法を選択し、各自に合ったムーブメントを創る ①		
14	各自表現方法を選択し、各自に合ったムーブメントを創る ②		
15	発表		
【成績評価方法】			
全体を100点満点中、実技30点、授業態度20点、授業課題30点、出席率での総合評価20点で評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的に実習を中心に授業を展開していく。担当教員は俳優だけでなく演出家としても活動しており、現場の空気を伝えていきながら進めていく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ダンス	田元 友美子 他	3単位／120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
ダンススキルにおける基礎的な動き、リズム感を身に付ける。与えられた課題の意味を理解し、頭で考え身体に伝達し表現できるようになることを目標とする。			
【講義概要】			
あらゆるエンターテイメントに対応できる技術を身につけるため、ミュージカルの小作品を実習し、演技、歌唱、ダンスの3分野を実習し、三位一体での表現力を養う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	柔軟のためのストレッチ		
2	身体のそれぞれの箇所のストレッチ、アイソレーション		
3	基礎的な動きをコンビネーションで行う ①		
4	基礎的な動きをコンビネーションで行う ②		
5	振付を覚えて実際に踊る ①		
6	振付を覚えて実際に踊る ②		
7	振付を覚えて実際に踊る ③		
8	台本読み合わせにあわせ、歌唱、ダンスで使用する楽曲を発表		
9	歌稽古、ダンス稽古を経て、キャストイングに向けたオーディションを実施		
10	オーディション結果を踏まえ、キャストイング、チーム分けを行う		
11	ミュージカルナンバーの歌稽古とダンス振付 ①		
12	ミュージカルナンバーの歌稽古とダンス振付 ②		
13	ミュージカルナンバーの歌稽古とダンス振付 ③		
14	発表会へ向けて、本番通りのタイムスケジュールでのゲネプロ		
15	試験を兼ねた発表		
【成績評価方法】			
100点満点とし、発表時の技術度50点、授業態度20点、出席率30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的には実習を中心に行うが、客観的に見て考える時間も設ける。担当教員はアメリカへのダンス留学を経験しているダンサーやミュージカルの経験者などで実践的な授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ファッションセンス	斉藤 恵 他	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
自分に合ったメイク、服装などを学び、人に良い印象を与えるための技術を学ぶ。外見はもちろん、内面も磨き、人間としての魅力を高めることを目標とする。			
【講義概要】			
自分自身の魅力に気付かせ、周りの魅力に気付くことができる視点を養う。主観だけでなく、客観的な視野をもてるように指導していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ファッションの歴史を学ぶ		
2	他者へ自分がどのように映っているのか認識させる		
3	メイクについて ①		
4	メイクについて ②		
5	メイクについて ③		
6	服装について ①		
7	服装について ②		
8	服装について ③		
9	髪型について ①		
10	髪型について ②		
11	ポージング		
12	表情について		
13	自己PRの仕方		
14	ウォーキング		
15	発表会		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として採点する。発表会での成果70点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的には講義を中心とするが、学んだことの集大成として発表会を行う。担当講師は芸能人のスタイリストや、多数のショーへの出演経験があるモデルなどが務める。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	声優演技	水田 わさび	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
テレビ、映画、ラジオ、ゲーム、舞台などにおいて与えられた役を声優としてきちんと演じられる演技の知識を身につけることを目標とする。			
【講義概要】			
声優として与えられる仕事についての知識を学ぶ。新人とベテランで求められていることが違うことを理解し、若手声優として現場で活躍できるための素地を育成する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	声帯、声筋の仕組みの説明		
2	滑舌を取り入れつつ、自身のアピールを考察する ①		
3	滑舌を取り入れつつ、自身のアピールを考察する ②		
4	群読を通じて他の人と合わせた読み方をする ①		
5	群読を通じて他の人と合わせた読み方をする ②		
6	18本のCMを声で色々な役を演じて作っていく ①		
7	18本のCMを声で色々な役を演じて作っていく ②		
8	18本のCMを声で色々な役を演じて作っていく ③		
9	CMの演出を生徒にもやってもらい作ることを学ぶ ①		
10	CMの演出を生徒にもやってもらい作ることを学ぶ ②		
11	CMの演出を生徒にもやってもらい作ることを学ぶ ③		
12	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ①		
13	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ②		
14	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ③		
15	決められた絵と性格のキャラクターを演出に従い声で表現する方法を学ぶ ④		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度50点、学習意欲20点、授業への発言30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を中心として授業を展開するが、実技も交えながら実践的な取り組みをしていく。担当教員はプロダクションに所属する声優として活動中であり、現場での経験を活かし指導していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	声優演技	水田 わさび	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
テレビ、映画、ラジオ、ゲーム、舞台などにおいて与えられた役を声優としてきちんと演じられる演技力を身につけることを目標とする。			
【講義概要】			
声優として与えられる仕事についての必要な技術を学ぶ。新人として求められるスキルの向上や、声優としての演技力の底上げをしていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	性別、年齢、キャラクター、の演じ分けを声で表現する ①		
2	性別、年齢、キャラクター、の演じ分けを声で表現する ②		
3	聴くことに集中し、周りと合わせることに協力すること ①		
4	聴くことに集中し、周りと合わせることに協力すること ②		
5	感情表現を豊かにするため、声、表情を練習し一人ずつ発表する ①		
6	感情表現を豊かにするため、声、表情を練習し一人ずつ発表する ②		
7	感情表現を豊かにするため、声、表情を練習し一人ずつ発表する ③		
8	様々なシーンの群衆を声のみで作り上げる ①		
9	様々なシーンの群衆を声のみで作り上げる ②		
10	台本を暗記して動きも入れ、フリーに演じる ①		
11	台本を暗記して動きも入れ、フリーに演じる ②		
12	ゲームの音声を演じる ①		
13	ゲームの音声を演じる ②		
14	メリハリのある台本を一人で読み切る発表・意見交換 ①		
15	メリハリのある台本を一人で読み切る発表・意見交換 ②		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。実技50点、学習意欲20点、授業への発言30点で成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技を中心として授業を展開するが、適宜講義も交えながら多角的な取り組みをしていく。担当教員はプロダクションに所属する声優として活動中であり、現場での経験を活かし指導していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	アフレコ実習	荻野 晴朗	3単位／120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
全身を使った演技と声だけの演技との共通点及び相違点を理解し、またアニメ特有の表現について学び、アニメのアフレコにおける演技プランを立てられること、更にその演技プランに基づいて表現できることを目標とする。			
【講義概要】			
声だけの演技は、全身を使った演技よりも環境その他の条件による制約が多い。一方、アニメのキャラクターは、時に非現実的な動きや表情をしながら、映像の中で活動している。これらのことを踏まえ、声優がアニメのキャラクターを演じるに当たって考慮すべきポイントを学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	台本の見方、マイクの使い方、スタジオマナー		
2	制限された中での演技 ①		
3	制限された中での演技 ②		
4	制限された中での演技 ③		
5	ひとつひとつの言葉が持つ具体的なイメージ ①		
6	ひとつひとつの言葉が持つ具体的なイメージ ②		
7	キャラクターの表情、動き、息遣い ①		
8	キャラクターの表情、動き、息遣い ②		
9	デフォルメ、キャラクター作り ①		
10	デフォルメ、キャラクター作り ②		
11	これまでに学んだことを活かした演技の組み立て ①		
12	これまでに学んだことを活かした演技の組み立て ②		
13	完成していない映像を使った演技実習 ①		
14	完成していない映像を使った演技実習 ②		
15	完成していない映像を使った演技実習 ③		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。習得した技術70点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
校内にある録音スタジオでの実習形式を基本とする。プロと同等の環境で演技をし、それに対して個々にアドバイスを提示する。担当教員は声優プロダクションに所属する現役の声優であり、その実務経験に基づいて声優養成に向けた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	吹き替え実習	隈本 吉成	3単位／120時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
吹き替え特有の表現について学び、画面の中の役者に負けない演技力を身につける。自分の思い描くイメージを映像にのせて表現できることを目標とする。			
【講義概要】			
演じる人物の性格・環境、作品の時代背景など、様々な事に目を向けながら役を研究し実践していく。マイク前の制限のある中での表現方法を学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）① マイク前の表現について		
2	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）② 導入教材を使用		
3	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）③ 導入教材を使用		
4	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）④ 洋画教材1を使用		
5	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑤ 洋画教材1を使用		
6	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑥ 洋画教材1を使用		
7	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑦ 洋画教材1を使用		
8	アテレコに親しむ（アテレコに慣れる事、楽しむ事）⑧ 洋画教材1を使用		
9	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）① 洋画教材2を使用		
10	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）② 洋画教材2を使用		
11	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）③ 洋画教材2を使用		
12	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）④ 洋画教材2を使用		
13	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）⑤ 洋画教材2を使用		
14	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）⑥ 洋画教材2を使用		
15	吹替力の向上（プロフェッショナルに近づけるように）⑦ 洋画教材2を使用		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。習得した技術70点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
スタジオを使用し、収録現場に近い実習形式で行う。担当講師は長きに渡り声優として活動しており、幅広い経験を活かし声優業界の現状や現場の様子なども折に触れて伝えていながら指導していく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	オーディション実習	大和奈波/宮入裕次郎/奥村拓真	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
オーディションで求められている人物像を考察し、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝え、オーディション時に普段の実力を最大限発揮できることを目標に授業を展開する。			
【講義概要】			
オーディションで緊張したり、普段の実力が発揮できないということがないように、講義を通して人前で演技だけではなく、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝えるための表現や技術を学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オーディションに対しての準備の仕方		
2	セリフ選びについての考察		
3	自分を知る ①（自己分析）		
4	自分を知る ②（他者分析）		
5	事務所としてほしい人材についての検討		
6	自分のイメージと相手に伝わり方の違いを学ぶ		
7	模擬オーディションの考察 ①		
8	トーク基礎 ①（声のトーン・テンポなど）		
9	トーク基礎 ②（イメージの伝え方）		
10	トーク基礎 ③（対象人数の違いによる話し方の差異）		
11	トータルコーディネート		
12	読解力 ①（原稿を読み解く）		
13	読解力 ②（多角的な視野を持ち、行間を読み解く）		
14	読解力 ③（文字を表現として表す）		
15	模擬オーディションの考察 ②		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本とするが、検討の際などのモデルケースとして実習も適宜取り入れていく。担当教員は当校のオーディション担当者や事務所関係者、ディレクターなど多岐にわたる。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	オーディション実習	大和奈波/宮入裕次郎/奥村拓真	2単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
オーディションで求められている人物像を考察し、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝え、オーディション時に普段の実力を最大限発揮できることを目標に授業を展開する。			
【講義概要】			
オーディションで緊張したり、普段の実力が発揮できないということがないように、実習を通して人前で演技だけではなく、自分のイメージや考えを聞き手に正確に伝えるための表現や技術を学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自分を伝える ①（1分間で表現）		
2	自分を伝える ②（セリフで表現）		
3	自分を伝える ③（言葉を使わずに表現）		
4	審査員として他者を評価する		
5	自分の出来ること・やりたいことの違いを学ぶ		
6	模擬オーディション ①		
7	トーク実践 ①（1分間で話す）		
8	トーク実践 ②（即興で話す）		
9	トーク実践 ③（チームでフリートーク）		
10	トータルコーディネート		
11	発信力 ①（自分の想いを言葉にする）		
12	発信力 ②（表情や感情をコントロールする）		
13	発信力 ③（言葉を正確に伝える）		
14	模擬オーディション前の実践		
15	模擬オーディション ②		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。実習の成果40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習形式を基本とするが、実際に表現したあとに検討するなど講義も適宜取り入れている。担当教員は当校のオーディション担当者や事務所関係者、ディレクターなど多岐にわたる。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	舞台演技	田村 連 他	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
舞台という特殊な場において、表現するための基本的な知識を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
様々な舞台作品に触れながら、役者としての成熟を促す。古今の舞台の違いにも言及し、深みのある役者に育てていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	舞台用語・設備について		
2	舞台の歴史		
3	舞台作品のジャンル		
4	様々な舞台作品の観劇と検討 ①		
5	様々な舞台作品の観劇と検討 ②		
6	様々な舞台作品の観劇と検討 ③		
7	様々な舞台作品の観劇と検討 ④		
8	様々な舞台作品の観劇と検討 ⑤		
9	舞台演技について ①		
10	舞台演技について ②		
11	舞台演技について ③		
12	舞台演出や舞台効果 ①		
13	舞台演出や舞台効果 ②		
14	舞台演出や舞台効果 ③		
15	舞台での役者としての生き方		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を中心に授業を進めていく。担当教員は声優や俳優、演出家として活躍している。現役ならではの実際の現場を踏まえた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	舞台演技	田村 連 他	5単位／200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
舞台での演技を中心に役者としての表現力を高めることを目指す。声優としてだけでなく俳優としても活躍できるための技術を学ぶ。			
【講義概要】			
主に台本を使用しながら、舞台のイロハを学ぶ。マイク前とは違った表現の仕方を知り、演技の幅を広げていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	舞台の基本について		
2	エチュード ①		
3	エチュード ②		
4	台本の読み合わせ ①		
5	台本の読み合わせ ②		
6	立ち稽古 ①		
7	立ち稽古 ②		
8	立ち稽古 ③		
9	中間発表		
10	お互いに演出をする ①		
11	お互いに演出をする ②		
12	通し稽古 ①		
13	通し稽古 ②		
14	通し稽古 ③		
15	発表		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。実習の成果40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的には実習を中心に行うが、適宜講義も取り入れながら理解を深めさせる。担当教員は声優や俳優、演出家として活躍している。現役ならではの実際の現場を踏まえた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	アフレコ・吹替	江沢 昌子 他	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
自分で台詞を考え演出することで、役者だけでなくディレクターとしての多角的な視点を持つことを目標とする。			
【講義概要】			
ディレクターの求めている演技を知るために、まずは相手の立場になって考えてみる。実際に演出するときの指示やアドバイスをすることにより、自分が演出をされる際にも求められていることを明確に理解できるように経験を積んでいく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	アフレコの仕事の種類・内容の説明		
2	内面作り方を学ぶ		
3	外面だけの演技を学ぶ		
4	台詞を自分たちで作成し、お互いに演出する ①		
5	台詞を自分たちで作成し、お互いに演出する ②		
6	台詞を自分たちで作成し、お互いに演出する ③		
7	キャラクターを設定し、お互いに演出する ①		
8	キャラクターを設定し、お互いに演出する ②		
9	キャラクターを設定し、お互いに演出する ③		
10	台本を作成する ①		
11	台本を作成する ②		
12	台本を作成する ③		
13	演技の切り替え・感情の切り替え ①		
14	演技の切り替え・感情の切り替え ②		
15	演技における内面と外面の融合		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率20点、授業への参加・意欲40点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的には講義を中心に進行し、適宜実習も取り入れ課題の理解を深めさせる。担当教員は声優プロダクション所属の声優たちで構成され、現場での経験を基に授業を進めていく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	アフレコ・吹替	江沢 昌子 他	5単位／200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
実際の仕事現場で短時間に最高の演技表現が出来るよう即応力を身に付け、また声だけの仕事だからこそ、口先だけでなく全身で中身が演じられるように力のある即戦力の声優の育成を目標とする。			
【講義概要】			
仕事場と同じ実践に即した授業を心掛け、作品や登場人物の魅力を最大限に生かしながら、自分（演者）の個性を発揮する為には、どうしたら良いのか探っていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	スタジオマナー・台本の読み合わせ		
2	声の要素を確認し、感情によって変える		
3	動きやリアクションの表現		
4	提示する演技と対応する演技		
5	演技の切り替え・対応の仕方		
6	1R テスト		
7	1R ラステス		
8	1R 収録 試聴して問題点を指摘		
9	2R テスト		
10	2R ラステス		
11	2R 収録 試聴して問題点を指摘		
12	3R テスト		
13	3R ラステス		
14	3R 収録 試聴して問題点を指摘		
15	本番		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。実習の成果60点、出席率20点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業			
基本的には実習を中心に進めていく。なるべく多くのアフレコの経験をつませていく。担当教員は声優プロダクション所属の声優たちで構成され、現場での経験を基に授業を進めていく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ナレーター	布施川 一寛	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
発声の基礎や滑舌、アクセントなどの基礎技術を習得・復習しながら、映像・文章を読み解く力を養い、ナレーターとして様々な読みに対応できる力を身に着けることを目標とする。			
【講義概要】			
自分の言葉を適切に使い、感情を相手に届けることが出来るようにする。様々な文章に触れることにより、その言葉の持つ意味を理解する力を養う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本語音声学概論 ①拍と音節		
2	日本語音声学概論 ②アクセント		
3	日本語音声学概論 ③イントネーション		
4	日本語音声学概論 ④プロミネンス		
5	原稿作成 ①ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
6	原稿作成 ②ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
7	原稿作成 ③ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
8	原稿作成 ④ナレーションの種類や構成などを分析。魅力的な文章について考える		
9	中間発表		
10	映像素材についての理解 ①		
11	映像素材についての理解 ②		
12	映像素材についての理解 ③		
13	原稿への理解 ①		
14	原稿への理解 ②		
15	原稿の選定		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度50点、出席率20点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的には講義を中心に進めていく。担当教員は声優プロダクション所属の声優で、ナレーションの現場での必要なスキルについて実践的に授業を進めていく。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ナレーター	布施川 一寛	5単位／200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
実戦形式で映像・文章の内容を正確に相手に伝えることを大切にしていく。伝える力を磨き、相手の要望に応えられるように様々な読みに対応できる力を身に着けることを目標とする。			
【講義概要】			
自分の言葉を適切に使い、感情を相手に届けることが出来るようにする。様々な文章に触れることにより、その言葉の持つ意味を正確に表現する技術を向上させる。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ナレーション実習① … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認		
2	ナレーション実習② … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認		
3	ナレーション実習③ … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認		
4	ナレーション実習④ … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認		
5	ナレーション実習⑤ … ナレーション課題の収録による実習。プレイバックして確認		
6	ナレーションとディレクション① … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る		
7	ナレーションとディレクション② … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る		
8	ナレーションとディレクション③ … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る		
9	ナレーションとディレクション④ … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る		
10	ナレーションとディレクション⑤ … 作成した原稿の収録。原稿作成者はディレクターに回る		
11	映像を使ったナレーション① … 映像に合わせたナレーション実習。タイミングや尺の感覚を掴む		
12	映像を使ったナレーション② … 映像に合わせたナレーション実習。タイミングや尺の感覚を掴む		
13	映像を使ったナレーション③ … 映像に合わせたナレーション実習。タイミングや尺の感覚を掴む		
14	オーディション対策 … 収録とオーディションの違いを考える。オーディション形式での実践		
15	課題原稿による試験、総評など		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。試験の成果50点、出席率20点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
基本的には実習を中心に進めていくが必要に応じて講義も交えながら進行していく。担当教員は声優プロダクション所属の声優で、ナレーションの現場での必要なスキルについて実践的に授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ボーカル	宮原 健一郎 他	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
これまで培ってきたボーカルの技術に加えて、ステージングやダンスの知識や、歌唱力と視感的なパフォーマンスの構成の仕方を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
授業の仕上げとして3～4曲の楽曲を用いて構成するショーを創ることを目指し、毎回の授業を積み重ねていきます。歌唱、ステージングの両面から指導し、観客を魅了するパフォーマンスについて研究を深めていきます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、音域、音質チェック、基礎の確認、歌う時の効果的な身体の使い方も学ぶ。		
2	〔ミュージカルナンバーA①〕歌唱の考察		
3	〔ミュージカルナンバーA②〕ステージング、振付を覚える		
4	〔ミュージカルナンバーA③〕パフォーマンスの構築		
5	〔ミュージカルナンバーB①〕歌唱の考察		
6	〔ミュージカルナンバーB②〕ステージング、振付を覚える		
7	〔ミュージカルナンバーB③〕パフォーマンスの構築		
8	〔ソロとアンサンブルA①〕歌唱の考察		
9	〔ソロとアンサンブルA②〕ステージング、振付を覚える		
10	〔ソロとアンサンブルA③〕パフォーマンスの構築		
11	〔ソロとアンサンブルB①〕歌唱の考察		
12	〔ソロとアンサンブルB②〕ステージング、振付を覚える		
13	〔ソロとアンサンブルB③〕パフォーマンスの構築		
14	〔ショーを創るための準備①〕		
15	〔ショーを創るための準備②〕		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として、講義の理解度40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義を中心として行う。担当教員は劇団にてミュージカルの経験者や、アメリカへのダンス留学を経験しているダンサーなどで実践的な授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	ボーカル	宮原 健一郎 他	5単位／200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
これまで培ってきたボーカルの技術に加えて、ステージングやダンスの技術も学び、歌唱力と視感的なパフォーマンス力が両立した表現ができるようになることを目標とする。			
【講義概要】			
授業の仕上げとして3～4曲の楽曲を用いて構成するショーを創ることを目指し、毎回の授業を積み重ねていく。歌唱、ステージングの両面から指導し、観客を魅了するボーカルについて研究を深めていく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、音域、音質チェック、基礎の確認、歌う時の効果的な身体の使い方も学ぶ。		
2	〔ミュージカルナンバーA①〕歌唱指導		
3	〔ミュージカルナンバーA②〕ステージング、振付指導		
4	〔ミュージカルナンバーA③〕仕上げ、発表		
5	〔ミュージカルナンバーB①〕歌唱指導		
6	〔ミュージカルナンバーB②〕ステージング、振付指導		
7	〔ミュージカルナンバーB③〕仕上げ、発表		
8	〔ソロとアンサンブルA①〕歌唱指導		
9	〔ソロとアンサンブルA②〕ステージング、振付指導		
10	〔ソロとアンサンブルA③〕仕上げ、発表		
11	〔ソロとアンサンブルB①〕歌唱指導		
12	〔ソロとアンサンブルB②〕ステージング、振付指導		
13	〔ソロとアンサンブルB③〕仕上げ、発表		
14	〔ショーを創る①〕		
15	〔ショーを創る②〕定期試験を兼ねた発表		
【成績評価方法】			
全体を100点満点として採点する。定期発表40点、毎授業の中での小さな発表40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義は実技演習を基本とする。担当教員は劇団にてミュージカルの経験者や、アメリカへのダンス留学を経験しているダンサーなどで実践的な授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	声優ビジネス	奥村 拓真	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
就職に向けたビジネスの基礎的な能力を身に着けること。声優・俳優等を問わず、社会人として必要とされる「人前で話す力（プレゼンテーション能力）」や「コミュニケーション能力」の向上・習得を目標とする。			
【講義概要】			
社会人に必要な「ビジネススキル」とは何なのかを考え、スキルを身に付けていきます。前半ではコミュニケーションの基礎を学び、後半では企画の立て方などの実践ビジネスを学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	授業概要説明 自己分析		
2	コミュニケーション基礎		
3	コミュニケーションの段階		
4	コミュニケーション応用		
5	コミュニケーション総論①		
6	コミュニケーション総論②		
7	ビジネス概論		
8	企画会議とは		
9	ペルソナ設定を知る		
10	企画の深め方		
11	現代のビジネスを知る		
12	人々のニーズを知る		
13	社会人に必要なPCスキルとは		
14	ビジネス用語を学ぶ		
15	人の心を動かすプレゼンテーションとは		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。講義の理解度40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式で行う。「ビジネスの基礎はコミュニケーションである」という観点から、前半部分は心理学などを用いたコミュニケーション論を、後半は実践的なビジネスについてを学ぶ。担当教員は学校教員経験者や、社会人研修講師経験のある者が担当し、実務に基づいた授業を展開する。			

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
声優養成科	声優養成科 昼間部（2年制）	2025年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実習	声優ビジネス	奥村 拓真	5単位／200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
就職に向けたビジネスの基礎的な能力を身に着けること。声優・俳優等を問わず、社会人として必要とされる「人前で話す力（プレゼンテーション能力）」や「コミュニケーション能力」の向上・習得を目標とする。			
【講義概要】			
社会人に必要な「ビジネススキル」とは何なのかを考え、スキルを身に付けていきます。前半ではコミュニケーションの基礎として「人前での話し方」を学び、後半ではビジネスの実践と応用をロールプレイングや実習を通して学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	授業概要説明 自己分析		
2	人前で話す技術		
3	話し方基礎訓練①		
4	話し方基礎訓練②		
5	話し方基礎訓練③		
6	コミュニケーション実習 プレゼンテーション基礎①		
7	ビジネス企画実践① プレゼンテーション基礎②		
8	プレゼンテーション基礎③		
9	ロジカルスピーチ実習		
10	プレゼンテーション実習①		
11	プレゼンテーション実習②（PREP法）		
12	プレゼンテーション実習③（PREP法）		
13	社会人に必要なPCスキルを学ぶ プレゼンテーション実習④（PREP法）		
14	自分で企画を考える ビジネス用語を学ぶ		
15	考えた企画をプレゼンする（最終発表）		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。実習の成果40点、出席率30点、授業への参加・意欲30点から成績評価を行う。出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習形式で行う。実習では現実の場面を想定したロールプレイングや、スピーチ演習などを実施し、実用的な学習を取り入れる。担当教員は学校教員経験者や、社会人研修講師経験のある者が担当し、実務に基づいた授業を展開する。			